

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者を主体とした考え方の理念があり、職員はその理念を達成するために年間目標を作り、ケア目標、業務目標と共に毎月評価しながら利用者の支援を行っています。	「その人のために何ができるか？」という考えのもと、職員が理想を書き出し持ち寄り、集約した結果として「その人がその人らしさを発揮し心身共に安心して生活ができる場となる様支援します」という理念を作られました。理念をライフサポート目標、広報目標などに落とし込み、職員間で指摘しあいながら理念の具現化に向けて取り組まれています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流が常にあるわけではないですが、そのようになれるように地域のサークルや地区との交流会を開催し、きっかけ作りをしています。	地域の方にはお茶会や施設の納涼会に参加していただいております。障害者サークル・託児所との交流や地域のお寺の団子まきに参加したり、美術展へご利用者の作品の出展をするなど地域との交流に努めています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	率先的に活動はしていませんが、求められればできる限り協力貢献をしたいと思っています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度は3ヵ月に1回のペースで開催していましたが、2ヵ月に1回開催するようになり、状況等を細かく報告するようになりました。入居者のニーズは、どのようなものなのか、何が求められているのかを相談する機会となっています。	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に行われ、市の担当者、区長、地域サークルの代表者などに参加していただき、事業所からの報告に加え、事業所からの質問を参加者に投げかけることで、提案や協力を得ています。	運営推進会議にはご家族にも参加していただき、事業所の活動状況を共有されることを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議をきっかけとして、レクリエーションの部分でも協力頂いています。また事業について不明な点なども随時相談させてもらい、連携がとれる関係になっています。	2ヶ月に1度の運営推進会議には市の担当者にも参加していただいております。事業運営について不明な点も相談できる関係が作られています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今まで身体拘束をしない方針で運営しています。勉強会も開催し、職員全体で自己を振り返りながら評価などを行い、身体拘束防止に取り組んでいます。	法人で定められている「身体拘束に関する取り決め」が全職員に周知徹底されています。また、ご利用者のケースに応じた検討を職員間で行い、身体拘束に関する理解を深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為に、外部の研修会に参加し、その後伝達講習を行ったり、施設内で勉強会を行ったりして取り組んでいます。勉強会では、言葉による虐待はどんなケースがあるかなどを学んでいます。	マニュアルによる周知徹底に加え、外部研修への参加、事業所内での勉強会を通し、職員全員が虐待に関する意識と知識を共有されています。また、医師もまじえケースに応じた検討を職員間で行い、改善につながったケースもありました。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これらの制度については活用までに至っていません。今後利用される方もいるので、職員は制度を理解し、家族や相談者に対して適切にアドバイスができるようにしていきたいと考えています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項を説明し、疑問や不安、心配事に対して傾聴の姿勢で対応しお互い理解や納得した上で、契約させて頂いています。契約後改正項目があった場合は、速やかに家族に報告し相談に応じています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から意見や希望があった場合、職員のミーティングで話し合い、具体的な対応策を検討し改善しています。個人的要望に対しては、個々に結果を報告しています。大きな課題については、お便り等で伝える予定となっています。	面会時やケアプラン説明の際に直接ご家族からの意見を伺うほか、忘年会、納涼祭などのイベントにも参加していただき、話し合える機会を設けています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回グループホームのミーティングを行い、目標に対しての評価を行います。各係りからの報告もあり、悪かった点は具体策を話し合い、改善されるように職員個々の意見を取り入れて業務等に取り組んでいます。	職員が意見交換しやすい雰囲気作りに留意しながら、毎月のユニット会議や全体の定例会議が定期的開催されています。メンタルヘルスにも注意し、職員の状況を見ながら個人面談も行なわれています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況等を把握しています。また職員は日々業務を振り返り、反省と気付きを業務日誌に記入することで、目標意識と向上心を持って働けるようにしています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	プリセプター制度を導入し、新人職員も不安なく働けるように取り組んでいます。また法人内で定期的に研修会を開催しています。また、他の研修会に参加した場合は伝達講習を行い、職員でスキルアップを目指し取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内で行われる研修会などへの参加が、同業者との交流する機会になっています。管理者は、同業者と意見や情報交換を行っています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、利用者が安心して話ができるような対応を心掛けています。相談を受けてから利用者が何に困っているのかを理解し、気持ちや要望に添える事が出来る様に心がけ、信頼関係を築いています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談する家族の立場に立って話を聞き、不安や要望など、思いの食い違いも解消されるように努めています。そして、入居に至るまで連絡を取り合い、その都度、話を聞きながら対応しています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の求めている事を理解し、協力できるよう努めています。状況に応じて、他のサービスの利用の説明をしたり、紹介等を行っています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や日課を一緒に行い、季節の行事などの時には、利用者が培ってきた知恵や技等を教えてもらったりして、楽しみながら支えあう関係を築いています。		
19	(7-2)	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には、本人の状況を把握して頂ける様に、機会がある度に説明や報告をしています。職員と家族は本人の状態等の情報を共有し、家族が本人に出来る事やしたいこと等を共に相談しながらすすめています。	ご利用者の状況を共有する為、ご家族に必要なに応じて電話連絡やメールで連絡したり、3ヶ月に1度事業所の広報をご家族にお送りし事業所の状況を伝えていきます。また、面会時やケアプラン説明の際に直接ご家族からの意見を伺う他、事業所の納涼会に参加していただくなどしてご家族との関係も築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との手紙のやりとりや、同じ複合福祉施設内に入所されている利用者の方と交流を続け、関係が途切れないように支援しています。定期的に来られるお店の方との会話も大切に、社会との関係が途切れないよう支援しています。	ご家族の協力も得ながら、行きつけの美容室への利用支援や近くのコンビニエンスストアでの買い物支援も行っています。ご利用者がご家族や友人に手紙や年賀状を送ったり、毎週水曜日には地元の業者の方が事業所に来ていただいて買い物を楽しめる機会を作るなどして、馴染みの関係が継続できるように支援しています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係も把握しながら話題を提供し、けんか等のトラブルが発生しないように見守りしています。2ユニットの利点を利用し、お互いの棟を行き来をして、個人単位や集団単位での関わりも支援しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて、本人の家族の相談や支援に努めています。また、併設している施設へ移動した後も、合同で行事やレクリエーション等を行い、関係を断ち切らない取組みを実施しています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの訴えだけでなく、普段の生活の会話の中や様子から、その方が持っている希望や意向を見つけ出し、把握に努めています。また、日々の状態を把握し、個人の意思に添えるように支援しています。	日常でのやりとりのなかで確認した意向については、朝のミーティングにて報告し情報共有しており、ケアプラン作成時も職員に確認し、意向に沿った支援ができるようにしています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力を得て、利用者が培ってきた暮らしを把握しながら日々のケアの中から得た情報を職員で共有し、生活歴を熟知するよう努めています。	アセスメント時に独自のフォームを活用してご家族からも協力してもらい生活歴の情報収集が行われています。また、職員が日々のケアの中から得た情報は、生活記録に記載し、申し送りや全体会議の場で共有されています。	アセスメントの際に日々のやりとりで収集した生活歴も更新できるように検討されることを期待します。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子をその方の発言等も含めて、生活記録に記録して状態の把握に努めています。また、ケアプラン更新時にはその都度、個人情報記録にその方の思いや希望を記入し、職員全員で現状の把握をするようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、日々の生活の中で入居者の状況を把握し、職員全体の意見や本人、家族の希望をもとに作成しています。またケアプランに対して事業所独自の評価表を作成し、評価を行っています。	3ヶ月に1度は担当者によりモニタリングを行い、ケアプラン更新時に全職員の意見を集約して定期的な見直しが行われるとともに、ケアチェック表によりケアプランと実際のケアのギャップをすぐに見つけられるように工夫がされています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常にケアプランと照らし合わせながら、個々の生活記録を記入しています。また、職員は朝夕にミーティングを行いお互い情報を共有しながら、実践に努めています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合福祉施設の特徴を活かし、本人や家族の状況、希望に対して他部署と連携し合い、協力を得て利用者や家族のニーズに対応できるよう取り組んでいます。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺地域、地元住民のご理解、協力を得て地域に出向いたり、ボランティアを随時受け入れています。利用者には、個人の好みに合わせて参加していただき支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意見を良く聞きながら、かかりつけ医に状態を詳しく報告し、適切な医療を受けられるよう支援しています。協力機関の診療所を利用される方が多いですが、その他の医療機関での受診も行われています。	協力の診療所を希望されるケースが多いですが、ご本人やご家族の希望の病院での受診が行われています。情報の共有は、面会時に口頭で伝えたり、電話で伝えたり、必要に応じて書面にてご家族を介して行われています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他部署とのミーティングが毎日あり、利用者の健康状態を伝え、急変時にはすぐに看護が対応できるようなシステムがあります。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は、医療機関に対して本人の身体状態や病歴等の情報提供を行っています。退院する際は、予め病院に訪問し、状態を看護師等に教えてもらい、利用者がホームに戻ってからの生活が安定したものになるような体制をとっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の指針を家族と話し合い、その後、状態に合わせて、今後についての方針を考えていくようにしています。また、状態の変化が見られた際も、職員、医師、家族と話し合いその状態に見合ったサービスの検討や、変化に備えての準備を行っています。	契約時に「重度化した場合における対応に関する同意書」を用いて、重度化の際、どのようにしたいかというご家族の考えを確認されています。また、実際に看取りに対応したケースもあり、併設の医院・老健との連携体制ができています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、定期的に救命講習を受け、普通救命講習修了証を取得しています。AED操作や急変時、事故の発生に対する研修についても受講しています。また、緊急時に対するマニュアルがあります。	継続的にAEDの研修及び普通救命講習を受講されています。また、急変や事故の発生に対する研修についても、併設の老健にて研修を受けています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	前回指摘のあった地震想定避難訓練を実施しました。また、火災や夜間など状況を想定した避難訓練も、利用者と共に実施しています。そして、マニュアルも作成し非常時には複合施設全体での対応を行っています。	地震想定や夜間帯の火災想定など年2回の定期的な避難訓練の実施や、複合施設と連携した備品・備蓄の整備がなされています。また、複合施設の防災委員会への参加や、ホーム独自のマニュアルも作成されています。	非常用食品や水は隣接する老人保健施設で確保されていましたが、知らない職員もいました。いつでも対応できるよう職員への周知徹底を期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活において、利用者が親しみやすいように、方言を取り入れた話し方をしています。また、方言でも失礼のないよう職員同士で注意合っています。利用者の目線で訴えなどは傾聴し、それに合った対応をしています。	ご家族に対して契約時に「個人情報に関する同意書」による説明と同意が行われているとともに、職員に対しては基本的なことは入職時の研修にて徹底されています。また、広報へ掲載するご利用者の写真の同意を得られています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションへの参加や入浴などは、希望に添って行っています。日常において、時間は自由に過ごして頂いています。アンケートやリクエストを聞いたり、想いや希望を表したりできるような場面や雰囲気を作るように心掛けています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や水分摂取の時間は、ある程度決まっていますが、その他の時間は、個々に自由に過ごしていただいています。午後はレクリエーションをすることが多いですが、強制することなく参加して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や起床時に本人の好む服装をして頂いたり、準備させて頂いています。その他にも、それぞれが用意したクリームや整髪剤を使用したりと、個々にあった対応をしています。本人や家族の希望に応じて、隣接する施設に來園する理容院を利用したり、家族が美容院に連れて行ってくれます。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりが作業に参加できるように、それぞれが得意とすることを把握して声掛けをしています。リクエストのあった物をメニューに反映させたり、外食や畑で収穫した食材を取り入れて、食事を楽しめるよう支援しています。	簡単な調理、盛り付け、片付けを一人ひとりの好みと能力に合わせ行い、職員と協力し合いながら食事の一連の流れが行われています。また、ご利用者が食べたいものを聞き、栄養士に渡しメニューに反映させることや、敷地内の畑で収穫した旬の食材を取り入れたり、回転寿司やおそば屋さんへの外食の機会を設けるなどして食事を楽しめるように支援しています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成し、必要な栄養のバランスが取れる様に支援しています。水分量が少ない方、食事にムラのある方には声掛けや調理法の工夫をしながら提供し、食事低下している方には栄養士と相談し、その方に合った食事形態での提供をしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日4回うがいを行い、就寝前に口腔内のチェックもかねて、歯磨き介助や義歯の手入れ義歯洗浄剤使用の介助をしています。歯科受診が必要な際には家族へ連絡し受診を勧めています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、その方に応じた声掛けや排泄支援を行っています。基本的にトイレでの排泄を支援しています。	生活記録にて排泄チェックを行ない排泄パターンを把握し、ご利用者に応じた排泄支援が行われています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を多めに心掛けたり、体を動かすことで排便しやすい身体作りを心掛けています。便秘がちな方には排便記録をつけたり医師と相談して対応するなど、その方合わせて支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めず、毎日入浴できるようにしています。個々の意思や希望を尊重し好みの時間帯に入浴できるように支援しています。	ご利用者に希望に応じ、せかすことなく本人のペースを大切にされた入浴支援がされています。また、瀬波温泉の足湯に出かけ、ご利用者に足湯を楽しんでいただきました。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースに合わせて自由に休息して頂いています。休まれるまでの間、食堂で話をしたり居室を歩き来したり、自由な時間を過ごして頂いています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の表を作成し、職員同士で内服前後に確認し、誤飲や飲ませ忘れの防止に努めています。ご本人に症状の変化が見られた場合は、家族・主治医・看護師と相談し対応しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみを提供できるように、年間で様々な行事等を計画し行っています。また、利用者の希望を聞き取りながらレクリエーション等を行っています。その他、生活の中で、利用者の好みや得意なことを見極め、一人ひとりの得意分野を活かした役割作りを行い、持っている能力を発揮出来るように支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天気を考慮し、畑や散歩に出かけています。地域で行われている行事にも参加したり、外食や花見、ドライブなどの外出の支援も行っています。	近隣への散歩、近くのコンビニエンスストアへの買い物、敷地内の畑などの日常的な外出に加え、計画を立て外食や花見、海へのドライブなどの外出支援が行われています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状態に応じお金を所持しています。週に一度、移動販売車が来られ、職員と一緒に自分で好きなおやつなどを購入し、支払いも行っています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があったときは、連絡して家族等と直接話をしたりしていただいています。郵便物の宛先の住所を調べたりして本人が、ちゃんと手紙などが出せるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は、車椅子がすれちがえる広さになっており、ホーム内の温度も一定に保たれ、快適に過ごせるような設備になっています。行事写真の掲示や、季節に合った飾りを展示し、時期の花々を飾ることで、季節を感じ取れるようにしています。	天井が高く、明るく清潔感と開放感があり、木目と落ち着いた色調の壁には程よく手作りの作品や写真などの装飾がされており、温かさを感じることができます。また、中庭や囲炉裏などの工夫もされています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の棟だけでなく別棟へ行き、利用者の方と話をしたりお茶を飲んだりする方もおられます。気兼ねなく行き来できるような雰囲気作りに努めています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスやベットなどをそのまま使用してもらっています。その方の状態に合わせて生活しやすいように配置も考えています。	使い慣れた家具や備品などを持ち込んでもらうよう働きかけ、ご利用者一人ひとりの好みに応じて居心地よく過ごせる部屋になるよう配慮されています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖を使用している人には杖立てを作り、危険防止に努め、洗濯干し場の台も倒れないように固定し、工夫しながら安全対策に努めています。		